

会社概要

会社名 株式会社サンコーライフサポート

代表取締役社長 橋本 一郎

設立 1982年7月3日

本社所在地 熊本県合志市須屋250-1

高齢者住宅所在地
・熊本県（合志市・宇土市）
・福岡県（福岡市早良区）

従業員数 160名※2021年12月1日現在

資格

<医療・福祉>

- 介護支援専門相談員（ケアマネジャー）
- 社会福祉士
- 介護福祉士
- 認知症ケア専門士
- 精神保健福祉士
- 看護師、准看護師
- 保育士
- 管理栄養士、栄養士

- ヘルパー 1級、2級（介護職員初任者研修）
- 福祉用具専門相談員
- 小中高教員資格

<建築>

- 一級建築施工管理技士
- 二級建築士
- ビル管理士
- 消防設備士
- 福祉住環境コーディネーター

関連法人 株式会社三好不動産
介護賃貸住宅NPOセンター
株式会社ぞうさんのはな〔特例子会社〕
社会福祉法人三幸（令和3年9月認可）

■障がい者支援■（12名）

- ・特例子会社（株）ぞうさんのはな
- ・社会福祉法人 三幸 A型事業所「YORISOI（1月）」
- ・就労サポート事業

■幼児・児童■

- ・企業主導型保育事業 ぞうさんのはな保育園
- ・放課後児童健全育成事業 ぞうさんクラブ
- ・子ども食堂

障害

子ども

■合志市

- 多機関協働事業○アウトリーチ等を通じた継続的支援事業
- 一時生活支援支援事業（生活困窮者自立支援事業）
- 就労準備支援事業（生活困窮者自立支援事業）

■大津町

- 多機関協働事業○アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

委託

■居住支援法人（熊本県指定）■

- ・入居相談・入居後支援・サブリース・見守り支援

■一社）合志市居住支援協議会■

- 各サロンへ出向きセミナー、相談会
- 空き家・空きテナント活用「居場所づくり」
- 合志市セーフティネット住宅の運営

- 建設事業■ ○メンテナンス事業 ○消毒・消臭・空き家管理事業 ○大規模修繕・設備改善 ○軽作業 など

住居

■デイサービス■

- ・元気な家
- ・地域密着型デイ秋桜
- ・通所サービスA型秋桜

■訪問介護■

- ・元気な家
- ・コレクティブハウスひまわり

■居宅介護支援事業所■

- ・和玄さくら

介護

■宅配弁当■

- ・ひまみちゃん弁当

■地域交流スペース■

- ・ひまみちゃん食堂

給食

■高齢者向け住宅■

- ・元気な家ひまわり（有料老人ホーム）

- ・コレクティブハウスひまわり（有料老人ホーム）

- ・スリースマイル秋桜（サービス付き高齢者向け住宅）

- ・グループホームうきうき

施設

熊本市圏

お年寄り健康把握アプリ開発へ
合志市と3業者が連携



合志市と3業者が連携して、お年寄り健康把握アプリを開発する。左から合志市長、各業者の代表者、市長夫人。

宅配弁当で「見守り」

「お年寄りの見守り」は、高齢者が安心して暮らすために重要な課題。熊本日日新聞が、合志市と3業者が連携して、お年寄り健康把握アプリを開発する。合志市長は、お年寄りの健康を把握し、見守りを行うことが、お年寄りの生活を支えるために重要であると述べた。

警察署との見守り協定

熊本北合志署が、宅配弁当会社と見守り協定を結ぶ。高齢者の見守りには、地域住民の協力が不可欠。熊本北合志署は、宅配弁当会社と連携し、高齢者の健康を把握し、見守りを行う。協定は、高齢者の健康を把握し、見守りを行うことが、お年寄りの生活を支えるために重要であると述べた。



高齢者の見守り協定に調印した警察署長と宅配業者社長。左が熊本北合志署長、右が宅配業者社長。

協定は、高齢者の健康を把握し、見守りを行うことが、お年寄りの生活を支えるために重要であると述べた。また、協定は、高齢者の健康を把握し、見守りを行うことが、お年寄りの生活を支えるために重要であると述べた。

宅配弁当で高齢者・障がい者への手渡しでの見守り



合志市には交流拠点となる見守りセンターが開設された。左から合志市長、各業者の代表者、市長夫人。

住民の「居場所」開設

合志市には交流拠点となる見守りセンターが開設された。住民の「居場所」開設は、高齢者の生活を支えるために重要であると述べた。また、協定は、高齢者の健康を把握し、見守りを行うことが、お年寄りの生活を支えるために重要であると述べた。

第106号 令和3年4月発行
熊本・大分・福岡・佐賀・長門
熊本市圏販売センター
TEL: 096-341-5335
FAX: 096-345-5555
http://www.kk-net.com

第108号 令和3年4月発行
わが町探訪(14) 地域にある、ほまじと氣になる所へお出かけするコーナー
みんなの居場所 併設店舗 はなみずき
11000 Food KASHIO
KASHIO
みんなの居場所

誰でも集えるみんなの居場所の開設

合志市には交流拠点となる見守りセンターが開設された。誰でも集えるみんなの居場所の開設は、高齢者の生活を支えるために重要であると述べた。また、協定は、高齢者の健康を把握し、見守りを行うことが、お年寄りの生活を支えるために重要であると述べた。

子ども食堂 高齢者と交流

合志市の設
ゲームも楽しむ

合志市須屋のサービ
ス付き高齢者向け住宅
「スリースマイル秋桜」
の食堂で8日、高齢者
との交流を兼ねた、体
験型「子ども食堂が開
かれた。

4月から月1回開いて
いる。この日は、施設
の職員とその子どもら
約20人が参加した。
入居者1人とボール
を転がして点を取るゲ
ームを楽しんだ後、昼
食の配膳をお手伝い。
子どもたちはエプロン
姿で、「ふき」「飯やレタス



高齢者のためにエプロン姿で食事の配膳を手伝う子どもたち。合志市

の肉巻きなどを配り、
一緒に味わった。熊本
市立楠小3年の清水大
輝君は「お年寄り」と
チームになって遊んだの
が楽しかった。配膳の
お手伝いも頑張れた。
同社総合支援室の原
川太希志さん(38)は
「高齢者とのふれあい

を通して、働いて人の
役に立ち、食事を受
け取る喜びを感じて
ほしい」と話してい
る。
施設周辺の小学生以
下が無料で参加できる
(保護者は有料)。開
催日は回覧板や地区の
子ども会を通じて告
知。隣接する菜園での
野菜収穫や調理体験な
ども計画している。
(宮崎あずさ)

幼老共生による子ども食堂

民間ノウハウで孤立防げ

県内初の委託 見守りに力

合志市の仮設「地域支えあいセンター」



熊本地震で被災し、仮設に引っ越している人などをサポートする地域支えあいセンター。7月に開いた合志市は県内初の仮設。民間企業に運営委託した。高齢者や障害者の生活支援に力をつけてほしいと、地域に力を入れてほしいと、県民生活部長(左)と、仮設に引っ越している人などをサポートする地域支えあいセンターの事務局長(右)が話している。合志市は、仮設に引っ越している人などをサポートする地域支えあいセンターを、民間企業に運営委託した。高齢者や障害者の生活支援に力をつけてほしいと、地域に力を入れてほしいと、県民生活部長(左)と、仮設に引っ越している人などをサポートする地域支えあいセンターの事務局長(右)が話している。合志市は、仮設に引っ越している人などをサポートする地域支えあいセンターを、民間企業に運営委託した。高齢者や障害者の生活支援に力をつけてほしいと、地域に力を入れてほしいと、県民生活部長(左)と、仮設に引っ越している人などをサポートする地域支えあいセンターの事務局長(右)が話している。

みなし受託のアパートに住む熊元洋子さん(左)に困り事などを聞く社会支援員の原川太希志さん(右)。8月31日、合志市

熊本地震 県内の仮災状況	
直接死	50人
震災関連死	163人
二次災害死	5人
負傷者	2,715人
建物 住宅	197,042棟
仮設住宅	4,024戸 (10,610人)
みなし仮設	14,447戸 (33,208人)
公営住宅など	985戸 (2,103人)

合志市がセンターを
開設した最大の理由
は、みなし仮設での理
由で、専門的な支援が
必要で、民間企業に委
託して運営してほしいと
求めた。市は、民間
企業に運営委託するた
め、仮設に引っ越して
いる人などをサポート
する地域支えあいセン
ターを、民間企業に運
営委託した。高齢者や
障害者の生活支援に力
をつけてほしいと、地
域に力を入れてほしい
と、県民生活部長(左)
と、仮設に引っ越して
いる人などをサポート
する地域支えあいセン
ターの事務局長(右)が
話している。合志市は、
仮設に引っ越している
人などをサポートする
地域支えあいセンター
を、民間企業に運営
委託した。高齢者や
障害者の生活支援に
力をつけてほしいと、
地域に力を入れてほ
しいと、県民生活部長
(左)と、仮設に引っ
越している人などをサ
ポートする地域支えあ
いセンターの事務局長
(右)が話している。

平成29年9月26日 (火)
熊本日日新聞

熊本地震による地域支えあいセンターによる見守り支援

実施目的

「住まい」を中心に高齢者・障がい者・生活困窮者・その他支援が必要とされる方々に対して、住居・就労・居場所・役割などその方に合った支援の提供と住み慣れた地域で生きがいを持ち、社会から孤立しないための会社独自の仕組みづくりを実践しています。

今後も複雑化していく地域課題に対応できる地域包括ケアシステムや地域共生社会の実現に向けた「誰一人取り残さない仕組みづくりを実践していくことを目的としている」



取り組みを始めた動機・きっかけ

社会構造や人々の暮らし、家族構成の変化に伴いコミュニティの希薄化が進む中、地域住民一人ひとりの暮らしを地域で支えあい、ともに歩んでいける地域共生社会を実現していく為に、今までお世話になって育てて頂いた地域へ、地元企業として恩返しをしたいという想いと地域づくりや課題解決に貢献したいという想いを強く感じたのが取り組みを始めたきっかけです。



実施体制

会社独自の部署として総合支援室があり、行政への出向者も含め、社会福祉士・精神保健福祉士など5名在籍し、そこが起点となり、介護部門、保育部門、建築部門と課題解決に向けて連携した体制を図っている。

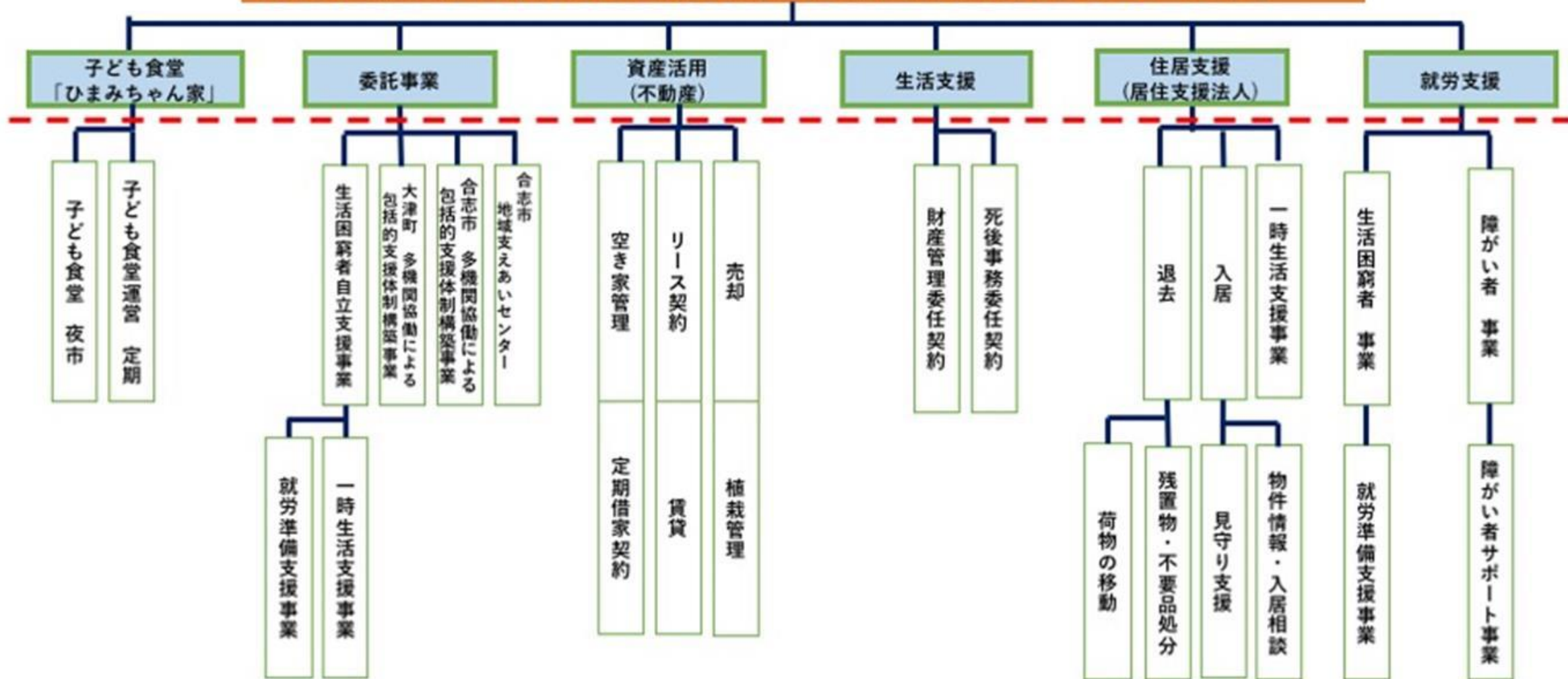
取り組み対象者

「属性は問わず、全ての困っている地域の方たちを対象」



総合支援室

『総合支援室では、「地域包括ケアシステム」「地域共生社会」の実現に向けて行政機関、社会福祉協議会、各関係機関と連携し民間の力を活かした活動を実施しています。』



- 多機関協働事業
- アウトリーチ

委託

出向

生活支援

相談

一時生活支援事業

- ・住居喪失
- ・緊急的な住居の提供

委託

定期訪問

- ・室内の状況確認
- ・生活状況
- ・ゴミの分別
- ・生活上の困り事

警察OB2名
防犯対策

居住支援法人

県指定

- ・住まいの提供
- ・サブリース（保証人なしの方…23件）
- ・家賃支払確認
- ・室内状況確認
- ・定期訪問

食生活

- ・見守りも兼ねた宅配弁当
- ・管理栄養士による助言



家計支援

- ・収支のバランスについてアドバイス。
- ・その方に合った家計管理の方法を助言



同行支援

- ・手続支援
- ・受診同行



体調管理

- ・看護師、社会福祉士の定期訪問による体調管理、助言

介護予防 認知症予防施策

- ・ミニデイ
- ・シニアヨガ



子ども食堂

- ・幼老共生
- ・孤食を防ぐ
- ・ふれあい夜市



地域との交流

- ・地域交流大運動会
- ・地域交流バザー
- ・保育園マルシェ



みんなの居場所

合志市居住支援協議会

- ・誰もが利用できる居場所を創設（社会福祉協議会と協働）

分野や属性は
誰でも



問わず
受け入れる

高齢者

障がい者

ひとり親

生活困窮

引きこもり

弁当配達、調理、清掃、介護、農作業、事務、保育

障害者雇用12名

就労準備支援事業

委託

役割の創出

就労支援

居住支援

居場所



取り組み効果

- ◆住居・就労の相談を受ける中で、空き家、空き室を活用した住まいの提供と就労の場を会社で提供することで、地域で永く住み続けていく為の自立した生活の基盤の確保が出来る。
- ◆就労を提供することで、本人の役割や居場所の確保でき、地域で孤立しないための環境が確保できる。
⇒「支えられる」側から「支える」側の立場に変わる。
- ◆会社としても人材確保になり、仕事を提供することで、業務の棚卸しや効率化、業務の分担が出来てきて、会社にとっても相乗効果が生まれている。



「住居」「就労」「居場所」「見守り」「相談支援」など、一人ひとりに対してその方に合った支援を循環して提供することにより、結果的に地域共生社会の実現に向けた仕組み作りが出来つつある。



これからも。。



みんなの笑顔のために

